

旭川工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	インターンシップ
科目基礎情報					
科目番号	0026		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	学修単位: 4	
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材					
担当教員	横井 直倫,笹岡 久行				
到達目標					
1.企業等における将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる。 2.キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢を取ることができる。 3.企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できる。 4.日本語を用い、効果的な説明方法や手段を用いて関係者を納得させることができる。 5.社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与することができる。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。 6.技術者として、技術と自らの現状および将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義を理解し、自らのキャリアを計画し、それに向かって継続的な努力ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	企業等におけるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを正確に考えることができる。		企業等におけるキャリアイメージをもとに、ほぼ正確に仕事とのマッチングを考えることができる。		企業等におけるキャリアイメージと仕事とのマッチングを考えることができない。
評価項目2	キャリアイメージの実現のため、必要な自身の能力について考え、かつ能力を高める努力ができる。		キャリアイメージの実現のため、自身の能力について考え、自身の能力を高める努力がほぼできる。		キャリアイメージの実現のために自身の能力について考えること、さらには能力を高める努力ができない。
評価項目3	企業、技術者・研究者が持つべき仕事への責任を正確に理解できる。		企業、技術者・研究者が持つべき仕事への責任をほぼ正確に理解できる。		企業、技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できない。
評価項目4	日本語を用い、効果的な説明方法や手段を用いて関係者を十分に納得させることができる。		日本語を用い、概ね効果的な説明方法や手段を用いて関係者をほぼ納得させることができる。		日本語を用い、効果的な説明方法や手段を用いて関係者を納得させることができない。
評価項目5	社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与することができる。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から積極的に物事を考えることができる。		社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために関与することがほぼできる。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることがほぼできる。		社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために関与することができない。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができない。
評価項目6	技術者として、技術と自らの現状および将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義を正確に理解し、自らのキャリアを計画し、それに向かって継続的な努力ができる。		技術者として、技術と自らの現状および将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義をほぼ正確に理解し、自らのキャリアを計画し、それに向かってほぼ継続的な努力ができる。		技術者として、技術と自らの現状および将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義を理解できず、自らのキャリアを計画し、それに向かって継続的な努力ができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (生産システム工学専攻の教育目標) 学習・教育到達度目標 (専攻科の教育目標) JABEE E-3 JABEE基準 (d) JABEE基準 (h)					
教育方法等					
概要	企業・研究機関等で4週間の就業体験を通じ、企業技術者あるいは研究者の指導のもとで学校では経験しない実際の課題に取り組み、実務体験する。さらに、高専5年間に得られた知識、能力をさらに発展し、問題解決能力を養うことを目的とし、技術者が社会に負っている責任を自覚し、技術者としての心構えについて学習する。				
授業の進め方・方法	本科目は4単位としているが、インターンシップ先の都合で単位が満たせない場合は、他の実習先で単位を補う。実習期間中、参加学生の業務内容や就業の様子について専攻科主任が実習先の対応責任者と連絡を取り合う。インターンシップ終了後、実習証明書、報告書を提出する。さらに、報告・討論会において学んだ成果を発表し、質疑・討論をする。				
注意点	受入企業等の中から、学生の希望、企業等の要望を勘案し、インターンシップ先(民間企業、国、地方公共団体等)を決める。ただし、インターンシップ先については本人の希望を考慮するが、インターンシップ先の都合により希望に沿えない場合もある。課題はインターンシップ先から与えられ、与えられた制約の下で、自主的、積極的に仕事を進める。インターンシップ目的、心構え、社会のルール等について理解し、行動すること。 教育プログラムの学習・教育到達目標の各項目はE-3とする。 自学自習(60時間)については、インターンシップ(120時間)の事前準備、報告書作成、報告・討論会の発表準備(要旨集、プレゼンテーション資料)のための時間を総合したものとする。 各実習先での実習時間(自学自習除く)は30時間以上とし、実習を遠隔で実施する場合は、実習先が作成する指導実績簿で指導日時・内容が確認できればその時間に含める。 評価については、合計点数が60点以上で単位修得となる。その場合、各到達目標項目の到達レベルが標準以上であること、教育プログラムの学習・教育到達目標を満たしたことが認められる。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	インターンシップ事前準備	インターンシップ先となる企業等：旭川高専産業技術振興会会員企業を中心とし、その他受け入れ可能な企業、国、地方公共団体、教育委員会、大学等で補う。 課題：インターンシップ先からのテーマを学生と企業等の間で協議し決定する。	

		2週	インターンシップ期間（１）	与えられたテーマについて問題解決できるよう企画，方策が提案でき，担当者との討論ができる。
		3週	インターンシップ期間（２）	作業を進める上でPDCAを考えながら，継続的に実行できる。
		4週	インターンシップ期間（３）	グループ内での責任を理解し，自主的な行動ができる。
		5週	インターンシップ期間（４）	地域・企業・研究機関との連携を通じて，社会貢献の意義を理解し，行動できる。
		6週	インターンシップ後	報告書の作成：学生はインターンシップ終了時に報告書を作成し，実習先と学校に提出する。得られた成果を論理的な文章にまとめ，分かりやすい表現ができる。
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	企業の評価	学生の報告書	報告・討論会	インターンシップへの取り組み	合計
総合評価割合	30	30	20	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	20	20	10	10	60
分野横断的能力	10	10	10	10	40